

フィリピの信徒への手紙 4:2-7

「イエス様はすぐ近くにおられます」

2025年5月11日(主の日) 川崎 恵

今日、ご一緒にお読みしているフィリピの信徒への手紙は、使徒パウロが捕えられている牢獄の中から、愛するフィリピの教会の人々に向けて書いた手紙です。パウロは主イエス・キリストの救いを一生懸命に伝えたがゆえに逮捕され、牢獄に入れられています。

使徒言行録16章にフィリピでパウロが牢獄に入れられた時のことが記されています。パウロが語る言葉をきいて、リディアという女性と家族が主イエス・キリストを信じ、洗礼を受け、フィリピの教会が生まれました。しかし、迫害する者があらわれ、パウロたちはローマの高官達によってとらえられます。大勢の人々が集まって、二人を責めたて、パウロたちは服をはぎとられ、何度も鞭で打たれて、牢屋に入れられ、足枷をはめられたと書かれています。想像ができない恐ろしい話です。

この手紙は、後日別の場所で牢獄に入れられている時にパウロがフィリピの教会の人々に向けて書いたのかもしれないそうです。どの牢屋にいたかどうかはわかりませんが、いつ殺されるかわからない。そのような状況でパウロはこの手紙を書きました。そのような状況でも、パウロは主が共にいてくださるのを確信していました。そして、フィリピの教会の人々のために祈り続けていました。

2節から聖書朗読をしていただきましたが、4章1節もお読みしたいと思います。

「だから、わたしが愛し、慕っている兄弟たち、わたしの喜びであり、冠である愛する人たち、このように主によってしっかりと立ちなさい。」

胸がいっぱいになります。

春休みに、息子と一緒にエジプトの国宝を見に行きました。昔の王が身につけていた冠や首飾りを見ました。私はあまりそのようなものに興味がなく、息子についていただけなのですが、初めてそのような冠をじっくり眺めて、とても驚きました。信じられないような本物の金、宝石がふんだんに使われています。王が身につける冠はこんなにも高価な、私には想像もできない高価で美しいものなのだと驚きました。

パウロはそのような冠にフィリピの教会の兄弟を例えました。あなたがたはわたしにとて、そのような美しい、尊い冠です。

「わたしが愛し、慕っている兄弟たち、わたしの喜びであり、冠である愛する人たち、このように主によってしっかりと立ちなさい。」「主によってしっかりと立ちなさい。」

この手紙を読んだフィリピの教会の人たちは嬉しかったのではないのでしょうか。パウロは彼らを励まします。「主によってしっかりと立ちなさい。」

「主によって」という言葉は 英語でいうと in the Lord. 「主の中で」という言葉です。「主イエスの中で」「しっかりと立ちなさい。」あなたがたは主イエス・キリストの中にある。主イエス・キリストの大きなみ手に抱かれている。その大きな御守りの中でしっかりと立ちなさい。

当時のフィリピの教会は、主イエス・キリストの十字架の救いを否定する人々が現れ、独自の主張をして、教会が混乱していたようです。

私たちの人生はいつも穏やかなわけではありません。思いがけない対立に巻き込まれたり、生活がたちゆかなくなったり、病気や怪我に苦しんだり、家族や友人の死に直面したり、判断に迷うようなこと、孤独を感じることに、様々なことが起こります。

パウロ自身が今、牢獄の中で殺されるかもしれない緊張の中にあります。1章21節には「わたしにとって、生きることはキリストであり、死ぬことは利益なのです」という言葉があります。2章17節に「たとえわたしの血が注がれるとしても」と語っています。これらの表現にパウロがいつ殺されるかわからない緊張の中にあることを読み取ることができます。

しかし、そのような状況でもパウロは主の救いを確信していました。

そして、フィリピの教会の人々に、「主にあってしっかりと立ちなさい」4節では「主にあって常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。」と書きました。

この「主において」という言葉も in the Lord 主の中でという言葉です。私たちは主の中にある。「主の中で」「常に」「喜びなさい。」

「喜びなさい」という言葉がこの手紙の中に何度も出てきます。

2章17節では「たとえ、わたしの血が注がれるとしても、わたしは喜びます。あなた方一同と共に喜びます。同様に、あなたがたも喜びなさい。わたしと一緒に喜びなさい。」

3章1節では「わたしの兄弟たち、主において喜びなさい。同じことをもう一度書きますが、これはわたしには煩わしいことではなく、あなたがたにとって安全なことなのです」

私はいつもとは違う状況でこのみ言葉をきいておりました。実は先週の火曜日に夫の母のご葬儀が国立教会で執り行われました。遠くから長倉先生も出席してくださいました。

先月、私が藤沢北教会で奉仕をさせていただいた日に、夫の母が6回目の脳梗塞を起こして、意識不明になってしまいました。日曜日だったため、私たち家族、そして夫の弟の家族もみな病院にかけつけ、会うことができました。母はこちらの声かけに応じて、少し口をあけたりなどしてくれました。その一週間前に、一人暮らしをしていた実家で転倒し倒れていたところを弟が発見し、病院に入院していました。これからの生活をどうしようと相談していた矢先に、意識を失ってしまったのです。孫たちは「おばあちゃん、元気になってね」と声をかけました。その後、母の遺書がみつかりました。母は病を得て、回復が望めなくなった時には延命治療は受けませんと記していました。夫とその弟はその意思を尊重すると決めました。病院を退院し、母は自宅に戻りました。そして、親族やヘルパーさんなどたくさんの方の手を借りながら、母が自宅で過ごす最後の時間を皆で協力しながら見守ることになりました。

「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。」

もうすぐ夫の母が地上の命を終える。ただただそのことを見守る。主イエス・キリストを信じていなかったら、不可能だったと思います。たくさんの思い出がつまった家です。

母がもう一度元気になることはない。さみしく、つらいことです。しかし、その見取りの時間はとても穏やかな時間でありました。

私たちは知らされております。主イエス・キリストが私たちのために十字架にかかり、死んでくださいました。そして、死からよみがえってくださいました。私たちはすでに罪と死から救われております。

主イエス・キリストはまことに死なれましたが、死に勝利されて死からよみがえられました。神は、この方をわたしの救い主と信じる者に、洗礼をさづけ、罪のゆるしと永遠の命の約束を与えてくださいます。神のものとしてくださいます。パウロは3章20節にこう記しています。

「しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。キリストは万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。」

わたしたちは主イエス・キリストを待っています。いつか、主イエス・キリストがもう一度目に見える姿でいらしてくださる。その時に主は私たちの卑しい体をご自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださる。神の子の新しい体、新しい命をいただいて、新しい神の国に入る。その希望が与えられています。わたしたちの本国は天にある。

「だから、わたしの喜びであり、冠である愛する人たち、このように主によってしっかりと立ちなさい。」「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。」とパウロは語ります。

夫の母はこの数年、喜びよりもさみしさ、怒り、絶望にとらえられることが多かったかもしれません。3年前に夫の父に病気がみつき、みつかった時には治療の方法もなく、あっというまに亡くなってしまいました。義理の父は家族をいつも笑顔でユーモアと愛と信仰でまとめていました。何度も脳梗塞を起こしていた母は、父に支えられて過ごしていました。父が急死してしまった母は一人で生きようとしました。施設に入ってみました。しかし、孤独にたえられず、家に帰ってきました。しかし、孤独は母を苦しめました。さみしいのだ。私ほど悲しい経験をした人はいないと、家族や友人にたびたび訴えました。

鎌倉雪ノ下教会は高齢の方々が大勢おられて、ご葬儀が続いています。義理の母の葬儀の翌日も、教会の方のご葬儀がありました。雪ノ下教会のある方がこんなことを口にしていました。昨年、ご主人を亡くされた。「さみしい。本当にさみしい。と話していたら、教会の人に復活を信じているのだから、さみしいと言っではいけないと言われたの。だから、私じっと我慢しているの。」

私は即座に「さみしいのは当たり前です。我慢しないでください。毎日一緒にいた人がいない。話したくても話せない。会いたくても会えないのだから。」と話しました。誰かが亡くなることはさみしくつらいことです。私自身3年前に実の母を見送りました。ALSという病気でした。亡くなる数年前から、話すことができなくなりました。あんなことが

あった、こんなことがあったと話せない。こんな時、どうしたらいいのかしらと相談できない。今でも時々、思います。母が鎌倉に遊びに来てくれたらいいのになあ。まして夫婦は主にあって一つにされているのです。いなくなったら困ります。

そして、誰よりも、イエス様がその方の死を悲しんでくださいます。あなたがいないのはたえられない、わたしはあなたとずっといたいのだと、その方の命を救おうと、その方の罪をかわりに負い、主イエス・キリストは十字架にかかってくださった。それほどまでに大切にされているお一人お一人です。

5節にこのように語られています。「主はすぐ近くにおられます。」英語の聖書を開いたら、The Lord is at handとありました。主はすぐ手の届くところにおられる。わたしははっとしました。主は生きておられる。主は死なれましたが、死からよみがえり、目には見えませんが、今生きておられ、私のすぐ近くにおられる。なんと嬉しいことかと思いました。私たちはすぐ近くにおられる主を呼ぶことができます。

主よ、助けてください。寂しいのです。つらいのです。すぐに私の手をとって慰めてくださる。み手をひろげて抱きしめてくださる。それほどわたしの近くに主はいましてくださる。その方に、パウロは「何事につけ、感謝をこめて祈りと感謝をささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。」と教えました。

主イエス・キリストは、神様は誰よりも私たちのことをよく知っておられます。今の状況も全てわかっておられる。そして、神にできないことは何一つない。

私たちは安心して、神様に信頼して、感謝をこめて祈りと感謝をささげ、求めているものを打ち明けることができます。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。私たちが小さな頭と心で考えて思い煩っても何も進みません。しかし、天地万物を造り、私たちを造り、全てを支配しておられ、十字架にかかってくださるほどの真の愛であられ、できないことは何一つない方が私たちの心と考えを守ってくださいます。

2節と3節をまだ読んでいませんでした。このように記されています。

わたしはエポディアに勧め、またシンティアに勧めます。主において同じ思いを抱きなさい。なお、真実の協力者よ、あなたにもお願いします。この二人の婦人を支えてあげてください。二人は命の書に名を記されているクレメンスや他の協力者たちと力をあわせて、福音のために共に戦ってくれたのです。

フィリピの教会の人々は、信仰を失いそうになっていたかもしれません。異なる教えを堂々と語る人々が教会の中にあらわれ、これからどうしたらよいのかと教会の中で意見が分かれていたかもしれません。名前がでてきたお二人の女性はそのような中で意見が食い違ってしまったのかもしれません。パウロはこの二人を厳しく咎めるのではなく、「真実の協力者」と呼ばれる教会の人に、この二人の婦人を支えてあげてくださいと書いています。そして二人に「主において同じ思いを抱きなさい」と語りかけました。ここでも「主

において」がでてきます。In the Lord 主の中で。エポディアもシンティアも、真実の協力者も、フィリピの教会の人々も、牢屋の中にいるパウロも、みな同じ「主の中に」いる。

「主の中で」「同じ思いを抱きなさい。」

「二人は命の書に名を記されているクレメンスや他の協力者と力を合わせて、福音のためにわたしと共に戦ってくれたのです。」

「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。」パウロはフィリピの人たちに思い煩うのをやめ、すぐ近くにおられる神を賛美し、求めているものを神に打ち明けなさいと教えました。そして、あなたがたの広い心がすべての人に知られるようにしなさいと教えました。

「広い心」と翻訳された言葉は、「思いやり」「親切」「善意」とも翻訳できる言葉なのだそうです。主イエス・キリストの中にしっかりと立つ人々に主は喜びをみたましてくださり、思いやりの心、親切にする心。愛し合う心、「同じ思い」を与えてくださいます。主がわたしたちの内に住んでくださいます。私たちの心の中に「広い心」を与えてくださいます。互いに思いやり、親切にし、赦しあう。新しく神の子とされたわたしたちの広い心は教会の外にあふれだしていく。すべての人に知られていく。

マタイによる福音書でイエス様は言われました。「あなたがたは世の光である。」山の上にある町は隠れることができないように、あなたがたの光は世で輝く。あなたがたは世の光。あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々があなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。

主の中で喜びに生かされ、愛に生きる私たちをとおして、人々は主イエス・キリストに出会います。主が私たちを救いのみわざ、愛のみわざにまきこみ、用いてくださいます。それはいつも笑顔でいることではないかもしれません。悲しいこと、苦しいこと、悩みの中にあるかもしれません。しかし、私たちは皆、主の中におります。今日も、私たちは主の中で、今生きておられ、すぐ近くにおられる主イエス・キリストのみ言葉をきき、主を礼拝しております。私たちはこの方に感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものをすべて打ち明けることができます。私たちはそれぞれに、祈りと願いをもっていると思います。主よ、わたしの心のうちから悲しみをとりのぞいてください。あなたがいてくださる確信と喜びで満たしてください。どうしても仲違いし、ののしりあってしまう家族が穏やかに平和に暮らせるように助けてください。私が福音をとりつぐことができるように壁を壊してください。生活に必要なものをお与えください。心をかたくなにするのをやめ、我慢するのではなく、一つ一つ求めているものを打ち明けたい。

神様にできないことは何一つありません。主イエス・キリストのまことの愛は、死に勝利されています。主イエス・キリストは死からよみがえられました。主はすぐ近くにおられます。安心して、求めているものを神に打ち明けたいと思います。あらゆる人知を超える神の平和が、わたしたちの心と考えとをキリスト・イエスによってお守りくださいますように。